

特別名勝 虹の松原③

～白砂青松の風景の再生 人々によって守られている虹の松原～

4、50年ほど前までは、虹の松原では松葉かきが行われ、家庭の燃料として使用されていた。その頃の松原は、マツの木が今ほどは密集していなくて、松原の中から青い海を見ることができ、また松原内は一面、白い砂だったそうである。

しかし最近では、松くい虫防除効果により松くい虫の被害は少なくなったものの、広葉樹の侵入や草本類の繁茂によって特別名勝としての景観の低下が危惧されている。

昔の白砂青松の虹の松原を再生したいとの県民や市民の強い要望があり、平成19年頃から、佐賀森林管理署、佐賀県、唐津市などの行政機関と住民との話し合いのもとで虹の松原の保全・再生に関する計画・実行に関する方針が策定され、現在様々な活動が行われている。

この方針の特徴は、松原の防災機能の維持のみならず、景観的な価値の保存・再生が目的にあげられている。合意された虹の松原の将来像は次の通りである。

1. 広葉樹やマツの過密林が伐採され 松原全域がマツの単層林の状態となっている。
2. 市民による松葉かき、除草等が実施され、松原全体が「白砂青松」の状況に近づきつつあり、松露の発生が観察できる。
3. レクリエーションや森林浴・海気浴など休養のフィールドとして、また植物の観察会や環境教育の場として活用がなされている。

内容を一言で表すと、何年かかろうとも白砂青松の虹の松原を再生しようとするものである。現在、虹の松原で行われている白砂青松再生のための事業は国内で初めての試みで、他の松原の整備の目標となる事業で画期的なものである。

白砂青松（はくさせいしょう 又は はくしゃせいしょう）とは白い砂浜と青い松がいろどっている海辺の美しい景色を形容することばである。白砂とは白い砂のことで、他の松原の砂は黒味がかかった色もありますが、虹の松原の砂はかがやくばかりのまさしく白い砂である。

※「白砂青松」とは白い砂浜と松林が一線を画した風景ではなく、白い砂浜に青い松が点在している風景が美しいとされ、多くの画家によって描かれてきた。

玉島川の上流の山地の地質は花崗岩であり、玉島川によって松浦湾に運ばれ虹の松原の白砂の源となっている。虹の松原こそ、白砂青松の言葉にふさわしい松原である。

◎エピソード・伝承・うんちく など

虹の松原では、現在多くの市民によって、白砂青松の虹の松原を再生するための松葉かき、除草作業が行われている。今後、さらに多くの市民の協力が必要となりますので、ご参加ください。松葉かきをしているとショウワロが見つかることがある。これは松原からのきれいなしるしとしてくれたお礼である。

分野 自然

地域 唐津・浜玉

◎地図・写真・統計資料など



白砂青松再生活動
(白砂青松を守る活動は
虹の松原が日本で初めてである)



白砂青松の風景
(佐賀大学客員研究員 田中明氏より)

◎引用・参考文献（出典）

- ◆「平成19年度虹の松原保全・再生対策調査報告書」九州森林管理局佐賀森林管理署(2007)
- ◆「平成19年度虹の松原再生・保全実行計画書」虹の松原保護対策協議会(2008)
- ◆別資料有(A4、5枚)
※「歴史」の部「唐津城の築城(城下町唐津の土台づくりをした人 寺沢志摩守広高)」参照

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html